

NATO早期加盟 ジョージアが意欲

外相 米の支援期待」



ジャネリゼ氏

している」と述べ、英国のEU離脱決定などの後も存在意義は薄れていないと強調した。具体的な時期は未定だが、「数年内にメドが立つようにEUの基準に沿う制度作りや安全保障面の連携を進めている」と述べた。

対米関係ではクビリカシビリ首相が5月に訪米し、トランプ大統領と会談。米国はジョージアの領土保全を支援する立場を改めて表明した。ジャネリゼ氏は「米国が関与するとほっきりと行号を出した」と期待する。

旧ソ連諸国のジョージア(グルジア)のミハイル・ジャネリゼ外務大臣は都内で日本経済新聞の取材に応じ、北大西洋条約機構(NATO)と欧州連合(EU)の早期加盟に意欲を示した。同国の一部地域は親ロシア派が実効支配する分離状態が続いている。「米国が最大のサポーターだ」と述べ、安全保障の維持にトランプ政権の支援が重要な役割を強調した。

NATOとEUの加盟は、国民の8〜9割と過去最多水準の世論が支持

を続けているが、状況は進んでいない。

(聞き手は小川知世)